

# 令和4年度 瀬戸内海環境保全トレーニングプログラム in 大分 開催報告

公益社団法人 瀬戸内海環境保全協会

## 1 目的

瀬戸内海の環境保全に係る事務を担当する正会員(府県・政令指定都市・中核市や、環境保全の実践活動を行っている環境衛生団体・漁業団体の職員等)ならびに賛助会員で、新たに瀬戸内海の環境保全業務に従事する者を対象に、瀬戸内法や環境技術等、専門的知識を習得することを目的として、研修を行っています。

## 2 研修期間、研修場所等

- (1)研修期間 令和4年10月25日(火)～27日(木)
- (2)研修場所 大分県中津文化会館(大分県中津市)
- (3)視察場所 2日目:中津干潟(ひがたらば、大新田海岸、舞手川河口)

3 参加人数 研修員23名(正会員:20名(自治体)、賛助会員:3名(民間企業))、聴講者9名

## 4 講義

- ◆「瀬戸内海の海洋環境総論～地球環境も視野に入れて～」  
広島大学 名誉教授 松田治 氏
- ◆「瀬戸内海における環境政策～瀬戸法改正を踏まえた今後の動き～」  
環境省閉鎖性海域対策室 審査係長 福井一彬 氏
- ◆「瀬戸内海における海ごみ・プラごみの実態」  
鹿児島大学南九州・南西諸島域イノベーションセンター長 藤枝繁 氏
- ◆「沿岸域における干潟・藻場の機能と役割」  
香川大学 教授 一見和彦 氏
- ◆「中津干潟の自然と保全活動について」  
NPO法人「水辺に遊ぶ会」事務局長 山守巧 氏
- ◆「大分県における水環境保全の取組」  
大分県生活環境部環境保全課 副主幹(総括) 中村千晴 氏
- ◆「閉鎖性水域生態系の栄養塩管理について考える」  
流域圏環境再生センター長・広島大学 名誉教授 山本民次 氏



講義(松田治 氏)

## 5 班別討議及び全体討議

3テーマ(①栄養塩類の管理 ②干潟の保全 ③海ごみ対策)に分かれ、班別討議を行いました。



視 察 (中津干潟)



班別討議

## 参加者からの感想

### ◆ 大分県 生活環境部 環境保全課 水質対策班 森 智貴 氏

令和3年度から瀬戸内法や水環境保全等の業務に携わるようになり、限られた分野での知識や経験しかない状態で研修を受けました。

研修の中で法改正に関連する研究や実態を踏まえた講義を聞くことができ、関係課や自治体との連携の重要性を再認識しました。

また、一番印象に残っているのは中津干潟での現地観察会です。気温が下がっていた時期にもかかわらず野鳥や多くの底生生物を観察できた一方で、講義の中でも出ていた漁具や廃プラスチックだけでなく、横型冷凍庫のような粗大ゴミが干潟付近に残っていたのが衝撃的でした。さらに、干潟付近に大規模な太陽光発電所が設置されており、徒歩圏内には商業施設や工場が多く立地しているなど、どのように自然環境の保全と開発行為との折り合いをつけるのかという共通の難題が存在していることを感じました。

最後になりますが、興味深い講義をしていただいた講師の皆様、研修をサポートしていただいた事務局の皆様、参加者の皆様に深くお礼申し上げます。

### ◆ 兵庫県漁業協同組合連合会 指導部 門田ひとみ 氏

補助事業を通して水圏環境・生態系にかかわる業務に携わるようになり、海の環境について視野を広げたいと思い本研修に参加いたしました。

講義では、地球環境、栄養塩管理、藻場・干潟の生態系、ごみ問題、保全活動、効果検証と幅広いトピックスが取り上げられており、立場の違う参加者も多かったため、市民との連携や理解を得ること等、自分とは違う視点の意見を聞いたことが印象的でした。中津干潟のセットバック護岸の視察では、防災と環境保全の両立について話を伺い、水圏環境に関する取り組みには複数組織の役割分担や連携が必須であること、協議・協力するための場を設けることの必要性を感じることができ、豊かな海を守るために自分や自分の所属する団体がどう貢献していけるのか考える機会となりました。

最後となりましたが、3日間の講義、視察で万全のサポートをくださった瀬戸内海環境保全協会の皆様、問題提起を交え興味深い講義をくださった講師の皆様、共に講義を受け意見交換していただいた参加者の皆様に深くお礼を申し上げます。

### ◆ 東ソー株式会社 南陽事業所 環境保安・品質保証部 環境管理課 伊藤 加津起 氏

昨年東ソー(株)の環境管理課に配転し、事業場内の排水管理関係について携わるようになりました。水質関係の知識が浅い中、この度のトレーニングに参加させていただきましたが、全員の先生方の講義が非常に理解し易く、瀬戸内海の環境について考えさせられる内容でした。

瀬戸内の海域は水環境を評価・管理するだけでなく地球温暖化等の気候変動や生物多様性、生産性の面も課題として取り組んでいく必要があることを、講義を通して学びました。

藤枝先生の講義では、非分解性海洋ごみの流れについて説明いただきましたが、私の住む山口県、そして兵庫県の沿岸は瀬戸内海のごみが特に漂着しやすい県だという報告に衝撃を受けました。海ごみを出さない、海に出る前にごみを回収する、現状の瀬戸内海における海ごみ、プラごみの実態を知った上で発生抑制を呼びかけ支援していくことが一企業や私一個人としてすべきことだと改めて考えさせられる講義でした。

瀬戸内海の栄養塩管理、生物多様性、海洋プラごみ対策について今後も情報収集し社内内で共有していきたいと思っております。特に海洋プラごみ対策は部署を巻き込み積極的に取り組む必要があると思っております。